

27PA-am111

加速度脈波測定システムを用いたコミュニケーション分析 第2報：薬剤師のコミュニケーションが患者の感情に及ぼす影響について

○仲山 千佳¹, 谷口 奈央¹, 宮地 佑佳¹, 大嶋 耐之¹ (1金城学院大薬)

【目的】我々はこれまで薬剤師の対応が患者側の精神状態（自律神経機能）にどのような影響を与えているのかについて、客観的・量的な視点を持ちながら質的な要素を加えた新たなコミュニケーション分析方法として加速度脈波測定システムによる分析方法の開発を行ってきた。今回、本分析方法を用いて薬剤師のコミュニケーションが患者に与える影響を分析し、服薬指導時のコミュニケーションにおける特徴や課題を明らかとする検討を行った。【方法】本研究は、模擬患者（Simulated Patient 以下 SP）5名と服薬指導を行う薬剤師10名の協力のもと実施した。自律神経機能の測定には加速度脈波測定システム ARTETT（株ユメディカ）を用い、SPの耳介に装着したセンサより服薬指導中の変化を経時的にモニターし、脈波測定・変動解析ソフトウェアにてデータの算出を行った。算出されたデータから自律神経機能バランスの指標とされる LF/HF 値がストレスの高い状態とされる4以上を示した箇所について、逐語録およびSPのフィードバックデータなどからコミュニケーション分析を行った。また、各高ストレス時点の患者の感情を喜、怒、哀、怖などの10種類の感情に分類し、これらとの関連性についても検討を行った。【結果・考察】SPと薬剤師の服薬指導をモニターしたデータ21例を収集した。各データにおける高ストレス時点について薬剤師毎、SP毎に分析した結果、SPによってストレスと感情の種類に違いがみられた。また、薬剤師毎の分析では、SPにポジティブな感情を与える傾向にある場合とネガティブな感情を与えがちな場合があるなど、薬剤師によって患者に与える影響に違いが見受けられた。今後さらに継続的な分析を行い、医療現場におけるコミュニケーションの課題や特徴を明らかとすることで、患者へのより良い医療の提供に繋がるものといえる。